

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06301

研究課題名(和文) 東南アジア島嶼部におけるリーダーシップの正統性に関する比較研究：ボルネオを中心に

研究課題名(英文) Comparative study of the legitimacy of leadership in Southeast Asian archipelago

研究代表者

佐久間 香子 (Sakuma, Kyoko)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・その他

研究者番号：50759321

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的はボルネオ島を中心に東南アジア島嶼部の小規模社会において、首長や王などのリーダーが台頭してきたのか、またいかなるコンテキストでリーダーの台頭が説明されてきたのかを比較研究することである。調査は、1) 東カリマンタン(ボルネオ島インドネシア領)とサラワク(ボルネオ島マレーシア)におけるフィールド調査、2)

当該地域に関する歴史資料等の資料収集と分析、3) 当該地域に関する民族誌的研究の収集と分類をおこなった。これらの成果は、査読付き雑誌論文2本、学会等における口頭研究発表5本として発表した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to conduct the comparative study of indigenous polities among Southeast Asian archipelago; how indigenous leaders have been risen, and how it have been explained in the local context. I conducted fieldwork on Malaysian Borneo and Indonesian Borneo (Kalimantan), collected and classified a huge amount of historical records and some references. As the result I published 2 refereed papers, and had 5 oral presentaitions within the period of this project. Finally, I organised a open workshop for compare with Oceania-pacific region for progressive project.

研究分野：人類学

キーワード：東南アジア リーダーシップ 正統性 交易 ボルネオ

1. 研究開始当初の背景

東南アジア島嶼部は、これまで多くの人類学的研究の舞台となってきたが、その学術成果の整理は十分になされてきたとは言い難い。しかし、域内外の活発な交易(貿易)活動が在地民社会における、神話、リーダーの台頭、貨幣、移動、言語などに与えた影響に関して蓄積されてきた膨大な学術的知識は、現在の東南アジア島嶼部の人類学的研究において重要な課題である。

具体的に、研究代表者がこれまで調査してきたマレーシア・サラワク州(ボルネオ島マレーシア領)における人類学的研究の歴史を概観しても、海洋交易の一次産品を産出してきた内陸の後背地社会の歴史性を十分に考察してきたとはいえない。とりわけ、サラワクにおける人類学の先行研究では、河川を媒介にした林産物交易が内陸部社会において政治的、経済的に重要な活動であることを認めつつも、海域世界と後背地の情勢とは乖離したまま、対象社会の周辺地域との関係や、国家やグローバルな海域世界の動向と関連付けて分析されることはなかった。

2. 研究の目的

以上を背景に、本研究では、ボルネオ内陸、在来民諸社会における王や首長のリーダーシップの正統性が、系譜や歴史伝承に基づいて、どのように語られているのかを分析するとともに、東南アジア島嶼部の他地域との比較検討すること目的とする。それは、かつて盛んにおこなわれた王権研究から抜け落ちた諸社会におけるリーダーシップをめぐる集合的記憶と現在的事象に関する比較研究である。

3. 研究の方法

本研究は、文献・資料調査とフィールド調査で構成されている。具体的には以下のとおりである。

文献研究に基づく東南アジア海域世界の後背地社会の分類：東南アジア島嶼部、とりわけボルネオ周辺地域を対象に、海洋交易の後背地として発展した地域社会を分類整理する。

本研究では以下の2つの官報『The Sarawak Gazette』(1870年発行開始、以下SG『Sarawak Government Gazette』(1908発行開始、以下SGG))を最重要の一次史料として用いる。

ブルック家統治下のサラワク王国の地方行政官はマレー語サラワク方言を習得した者のみが配置されていたため、この史料(特にSG)に記載されている彼らの毎月の報告書は豊かな民族誌的資料価値を有している。また、SGGには交付された法律、村落と報告政府との交渉に用いられた書類や合意決定内容を記した書類が掲載されている貴重な公文書である。

その他、ボルネオおよび、スルー海域は

東インドネシア諸島などボルネオの周辺島嶼部社会における交易活動(林産物・奴隷を含む)、起源神話、系譜調査について記述した一次・二次文献の収集と読解を進める。また、とりわけ一次史料に関しては、史料の劣化が激しいものが多く、スキャナーをもちいてデジタル・アーカイブ化の準備を進める。

河川交易の内陸部への影響の整理

ボルネオ内陸部において河川交易が内陸部にもたらした影響を実証的に検証するためのフィールド調査をおこなう。海洋交易の中でもっとも大きな割合を占めていた林産物を産出する内陸部では、富と権力が集積する小規模政体が誕生と消滅を繰り返してきた。

フィールド調査の対象は、規模の小さい比較的最近に建てられたロングハウスや村落、ブルネイのような現在まで続く王国、あるいは港市でもなく、内陸部の有力村落とそれを中心とする地域社会である。なぜなら、内陸部の交易・物流拠点から後背地に向かって広がる地域社会は、貿易統計など資料が豊富な港市を対象としてきた歴史研究、あるいは人類学における個別村落研究や王権研究では看過されてきたが、時として、支配者や沿岸部の港市と交渉可能な政治経済力を行使できる数少ない政治的単位だったからである。

4. 研究成果

本研究で明らかになったことは以下のとおりである。

東南アジア島嶼部の民族誌資料を収集し、可能な限り、考察の対象時代、公刊年、当該地域の旧宗主国、交易品目、王権・首長制等の分類、政治的リーダーと慣習長の区別、戦闘・反乱の史実に分けて分類作業を進めてきた。

その結果、ローカルな自然資源が海洋交易の商品として取り扱われるようになった時期や商人との関係、さらに言語学上の相違点に鑑みた場合、海流や地形に依拠した地域間のつながりと類似点が明らかとなってきた。つまり、「東南アジア」という学術上の地域枠組みとは別の「地域」の設定した比較研究への発展的転回の可能性が、本研究を進めていく過程で浮上してきた。

そのため、本研究の発展と展開にむけて、太平洋・オセアニア地域を研究する研究者と共に意見交換のためのワークショップを開催した。具体的には東南アジア島嶼部にくわえて、アンダマン海、太平洋オセアニア、台湾をフィールドとしてきた人類学者、地域研究者が集まり、各々のフィールドの具体的な報告から共通のアリーナを浮かび上がらせる議論に重点を置いた。

加えて、日本国内の東南アジア研究の状況

を過去 50 年にわたって振り返り、研究動向の分析をおこなった。具体的には、学術論文、学会個人発表、学会パネル発表で取り上げられた国や地域（一国研究、国家間研究、東南アジア全体を対象とした研究）、分野（歴史学、人類学など）、主題と対象とした時代を分類してその傾向の変遷を明らかにした。

その結果、対象と地域としては国家間研究、また主題として「華僑・華人」「移動」が近年の研究動向で増加していることが明らかとなった。これらの成果は、共同作業の成果として東南アジア学会 50 周年記念シンポジウムで発表された。

この成果は、本研究日本国内の研究動向の中に位置付けて相対化し、今後の研究方針を考えるための重要な指標となった。

本研究では、東南アジア海域における資料の収集と分析をし、これらのデジタル・アーカイブ化とウェブ上での公開を目指して進めてきた。現時点では、公開環境が整っておらず、オフライン上でデータベース化を進めている。

フィールドワークでは、サラワク州のパラム河流域と、山脈（国境）をはさんで隣接するボルネオ島インドネシア領の東カリマンタン州マハカム河流域の 2 つの地域において比較調査をおこなった。インドネシア側では、歴史的にクタイ王国のスルタン・アジ・ムハンマド王（1850-1899）の統治領を中心に聞き取り流域の村落での聞き取りを行った。

サラワク（ボルネオ島マレーシア領）では、ブルネイ・スルタン統治時代からブルック王（イギリス）が統治していた時代の領域の変遷と内陸部における林産物交易の変遷を聞き取りした。

また、2016 年の選挙区再編による新しく誕生した選挙区における選挙候補者に対する地域住民の評価と、調査村で新村長が擁立される現状を調査した。まず、調査村が位置する地域が新しい選挙区に再編されたことで、過去役 20 年にわたってその地区の代表議員を輩出してきた近隣の村と別の選挙区として独立した。そのため、選挙活動は狭まった新しい選挙区内で集中的に候補者の宣伝活動が繰り広げられ、投票という行為自体に対して村人の関心が高まった。同時に、サラワクのパラム河流域においては、サラワク州議会議員や村長の擁立において、開発、定住民と（元）遊動民との関係が家との関係は非常に重要な要素であることが明らかとなった。

一方、選挙区の再編に伴い、調査村では新しく村長を擁立する動きが具体的に動き出し、2017 年 2 月の調査では、なんども集会が開かれ村民の活発な議論が展開された。その過程において、これまでの村落の首長の系譜との関係や土地との関わり、現在における開発の文脈における語りを中心であった。この

ことから、日常生活の中ではすでに形骸化した慣習的なリーダーシップが、政治の場面で顕在化することが具体的に示された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2 件)

佐久間香子 (2017) 「ボルネオ内陸部の交易拠点としてのロングハウス：19 世紀末のサラワクにおける河川交易からの考察」『東南アジア研究』54(2): 153-181. 査読あり

金沢謙太郎、分藤大翼、小泉都、佐久間香子 (2017) 「熱帯原生林の共生社会論——ボルネオの原生林を守る民族間コミュニケーション——」『信州大学 総合人間科学研究』11: 19-34. 査読あり

〔学会発表〕(計 5 件)

佐久間香子 . 「サラワクの河川交易」第 25 回マレーシア学会研究大会 シンポジウム：サラワクから見るマレーシア . 京都大学 . 2016 年 11 月 27 日 .

佐久間香子 . 「水路・陸路・空路で編む社会空間：現代のボルネオ内陸部社会における生活戦略の考察」第 13 回ゾミア研究会（「水のゾミア」特集）. 京都大学 . 2016 年 7 月 16 日 .

佐久間香子 . 「林産物交易が編み上げたボルネオの後背地社会：形成過程からの考察」白山人類学研究会 . 東洋大学 . 2016 年 6 月 20 日 .

金沢謙太郎・分藤大翼・小泉都・佐久間香子 . 「熱帯原生林の共生社会論——ボルネオの原生林を守る民族間ネットワーク——」第 26 回日本熱帯生態学会年次大会 . 筑波大学 . 2016 年 6 月 18 日 .

佐久間香子 . 「後背地の交易拠点としてのロングハウス：19 世紀末のサラワクにおける河川交易からの考察」第 94 回東南アジア学会 2015 年度秋季大会 . 早稲田大学 . 2015 年 12 月 5 日 .

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

〔エッセイ〕Kyoko Sakuma. 2016. Fieldwork with Children in Borneo. In *CSEAS News Letter* (73): 13-14. 2016年12月.

〔書評〕Kyoko Sakuma. 2017. <Book Review> Marie-Sybille de Vienne. Brunei: From the Age of Commerce to the 21st Century. Singapore: NUS Press in association with Institute De Recherche Sur L'Asie Du Sud-Est Contemporaine 2015, xviii+345pp. In *Southeast Asian Studies* Vol. 6, No. 1. Pp. 196-198.

〔国際ワークショップ〕佐久間香子(代表)、紺屋あかり、若松大祐、陳玉苹、小川了、比嘉夏子、鈴木佑記、関智英、長島怜央ほか。「東南アジアとオセアニアをつなぐ：熱帯海域世界の政治史と経済活動」(アジア・太平洋海域世界縦横プロジェクト)。京都大学吉田南キャンパス。2017年3月4日。

〔解説〕佐久間香子。ドキュメンタリー作品『Women of the Forest』。Visual Documentary Project 2016。京都大学。2016年12月15日(主催：京都大学東南アジア研究所、交際交流基金アジアセンター)

〔展示〕紺屋あかり(代表)、佐久間香子、古川文美子。「南の島に生きる：「贈与」と「交換」でつながる島嶼の地域社会」京都大学アカデミックデイ 2016。京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館。2016年9月18日。

6. 研究組織

(1)研究代表者

佐久間 香子 (SAKUMA Kyoko)
京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携
研究員
研究者番号：50759321

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()